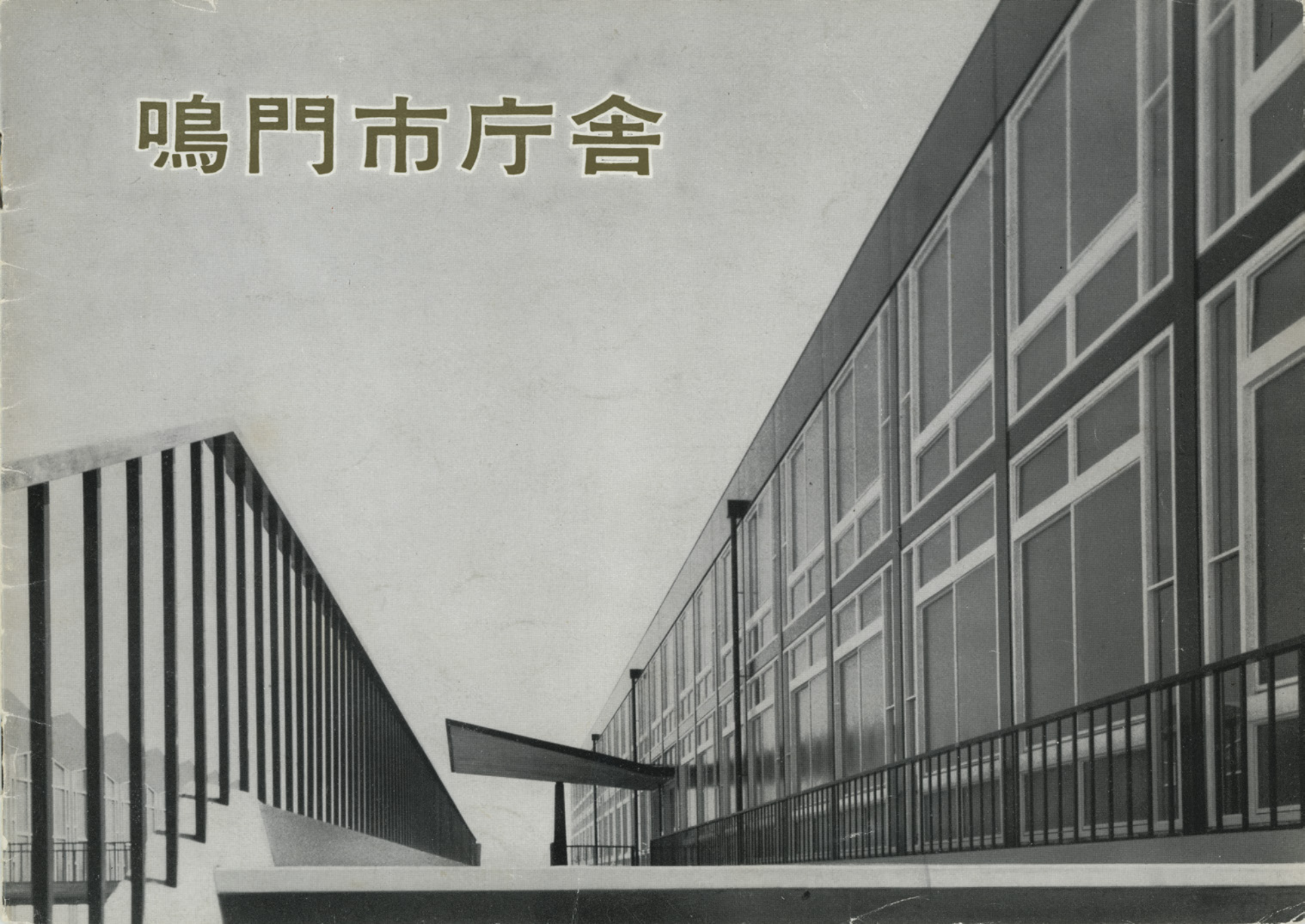
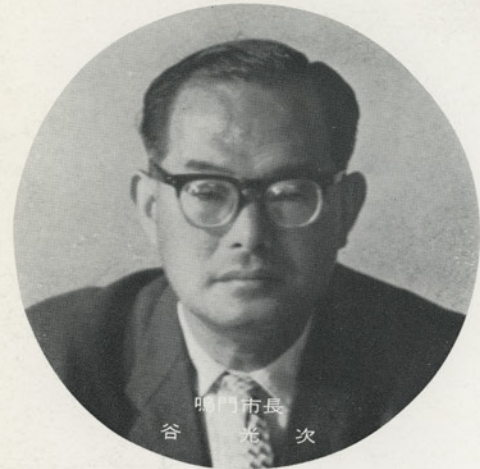


鳴門市庁舎





鳴門市長
谷 光 次

— ご あ い さ つ —

鳴 門 市 長 谷 光 次

多年にわたり懸案でありました新庁舎がここに完成いたしました。私たちの宿願である本土連絡大鳴門架橋実現の見通しが、ますます明るくなり、いままた新産業都市の指定を受けて本市の将来は飛躍的發展が約束されているとき、新庁舎の完成は、まことに大きな意義があると存じます。

さて本市の都市計画は、国道11号線に沿ったこの一画を、官公街として開発することになっております。すでに労働基準監督署、警察署、税務署、市民会館が軒を連ね、最近にはモーターボート会館、商工会議所、簡易裁判所があいついで完成されました。この恵まれた地に行政センターとして新庁舎を建設したのでありますが、きょうからは市政の場として、私たちの希望する「明るい、豊かな、住みよい」街づくりをすすめていくわけがあります。市制施行以来、先輩各位がたゆまぬ努力によって、築きあげられました輝かしい歴史を背景に、この庁舎建設が市民各位の幸福な生活を招来する機となりますよう、私も一層の精進をいたしたい所存でございます。

この庁舎を建設するにあたりまして、皆様方からよせられましたご協力に、感謝いたしますとともに、長期間献身的なご努力を惜しまれなかった、京都大学工学部建築研究協会並びに清水建設株式会社に対しまして、心から感謝の意を表しごあいさつといたします。



庁 舎 夜 景



基本階市民ホール



市民課客溜り



市民相談室から事務室を望む



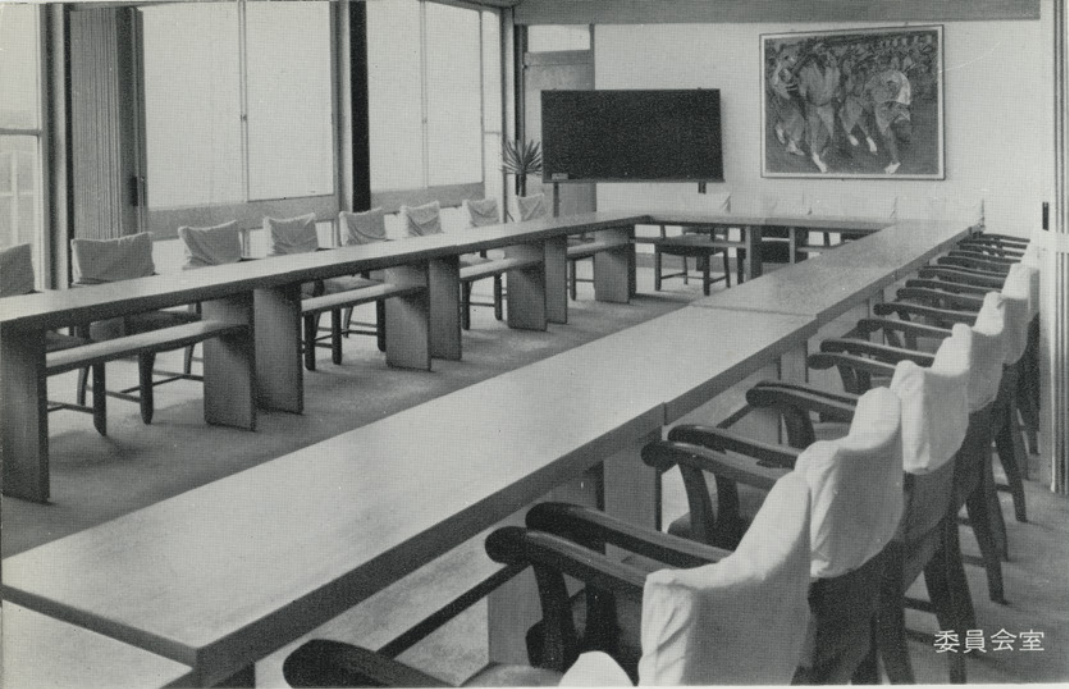
市長室



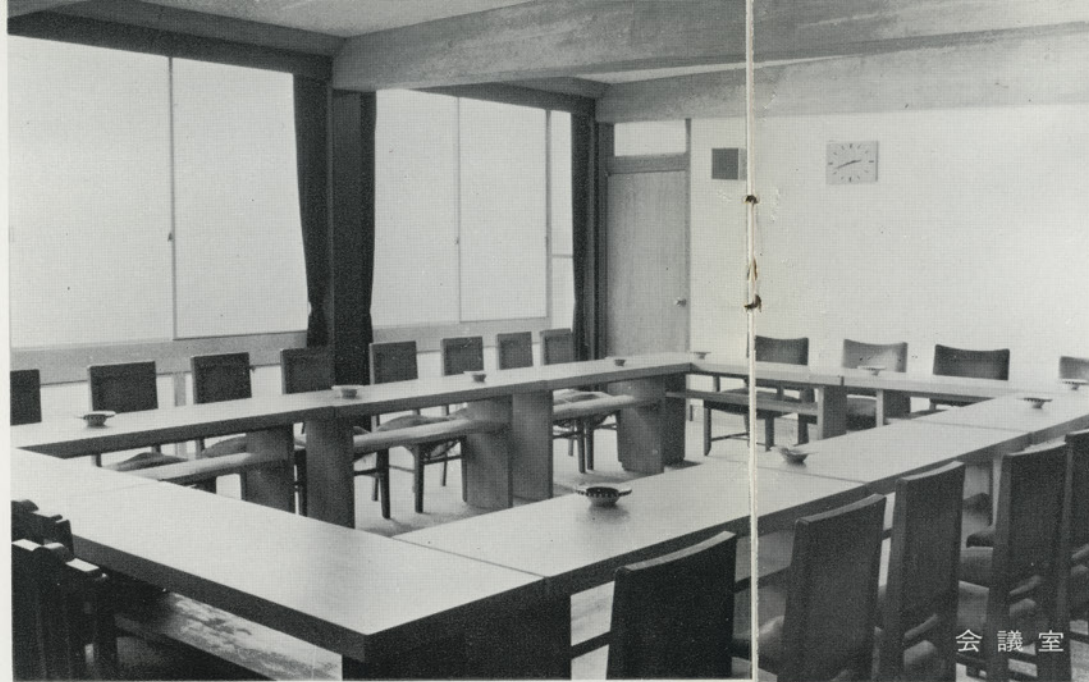
議長室



議場



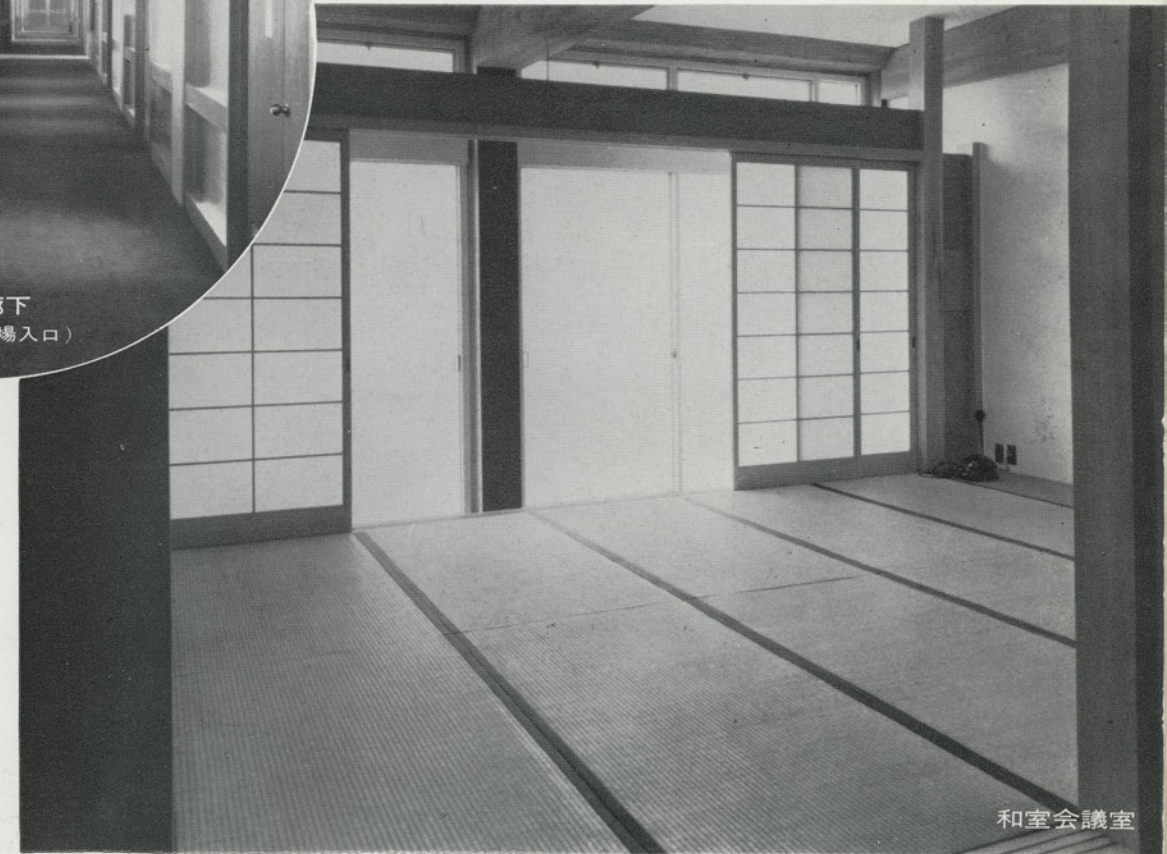
委員会室



会議室



3階廊下
(正面は議場入口)



和室会議室



ポート会館

市民会館

市役所

市政センター



陸橋から庁舎正面を望む

鳴門市庁舎概要

新庁舎は国道11号線に沿って、さきに建設いたしました市民会館に始まる総体計画に基づいて設計されたもので、市民の広場と市民会館並びに庁舎を陸橋で結び、基準階を2階に設けて中央に市民ホールを広くとり、市民に関係の深い窓口事務のほとんどを、この階で処理することになっています。国道に接する庁舎前広場は自動車が輻輳しますので、陸橋を利用することにより、安全性を高め、見晴らしのよい2階の窓口事務所と市民各位との密接な結びつきが考慮されています。

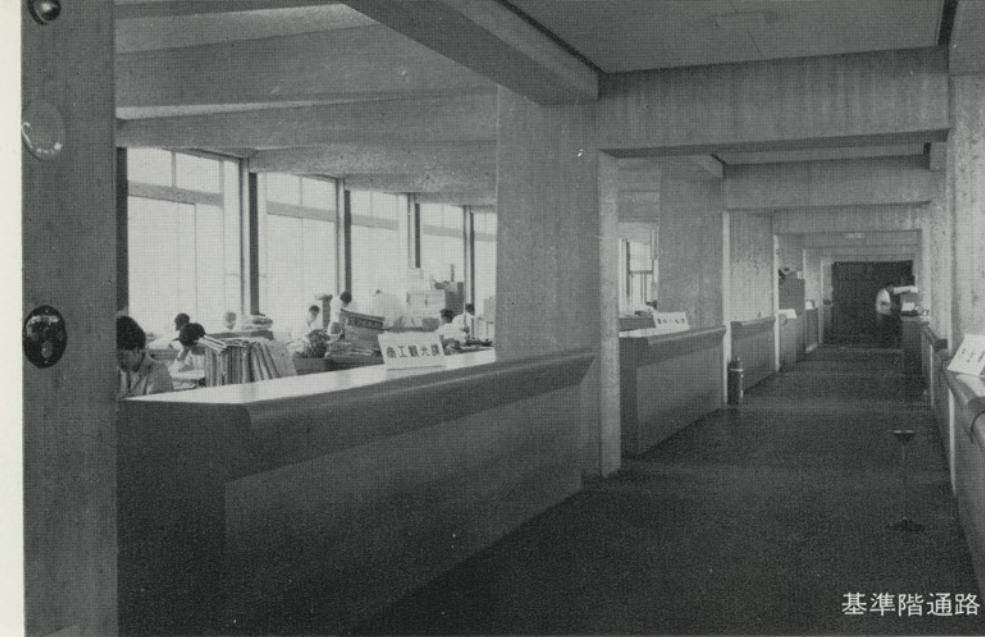
また本庁舎は、特に採光を考えて東西に長く南北は総ガラス張りとし、事務能率の向上を計ることを基本方針として設計したもので、市役所としての公共性を配慮した建築であるといえましょう。

これらは新産業都市建設あるいは本土連絡大鳴門架橋により阪神経済圏と結ぶ大動脈の重要地として、飛躍を約束されている産業観光都市の玄関にふさわしい、近代的な建築であると思います。

1. 建物概要		2. 設備概要	
所在地	鳴門市撫養町南浜字東浜170番地	電気設備	
敷地面積	4,415.3㎡	受電	3相3線式3,300V、電灯125KVA
建築面積	1,324.0㎡		動力75KVA
延面積	3,931.2㎡	弱电	時計、拡声装置、インターホン
各階別床面積	1階 1,310.4㎡ 2階 1,310.4㎡		出退表示・チャイム・ブザー、自動火災報知機
	3階 1,310.4㎡	暖房設備	中央式温風（一部スチーム併用）
	他屋上ファンルーム、管理室、		暖房前田式セクショナルボイラー
	屋外プロパンガスボンベ格納庫		540Kca/hr
	（自動車車庫、雑倉庫、	冷房設備	大金UC251型 65,500Kca/hr 議場のみ
	自転車置場……未着工）		
	陸橋 高さG.L+3.175m、長さ	換気設備	厨房、湯沸し 1階 便所
	118.0m、床面積677.5㎡	給水設備	水道引き込み75%
本館軒高	G.L+10.5m	消火栓設備	屋内消火栓1、2、3階各2か所
本館最高	G.L+12.0m	排水設備	自然排水
建物仕上		浄化槽設備	市民会館と兼用 但し分離槽よりポンプアップ
外装	耐震壁：コンクリート打放し	電話設備	局線15 内線101 自動交換装置
	ゴーレックス吹き付け	設計・監理	財団法人建築研究協会（京都大学工学部建築学教室内）
	柱 梁：鉄骨O.P塗仕上げ	設計指導	工学博士 増田 友也
	スチールサッシュ：防錆塗装の上	工事施工	清水建設株式会社
	O.P塗仕上げ		
	硝子：ラフワイヤー1部透明		
屋根	パーライトコンクリート打ちゴーレックスシルバー仕上げ		



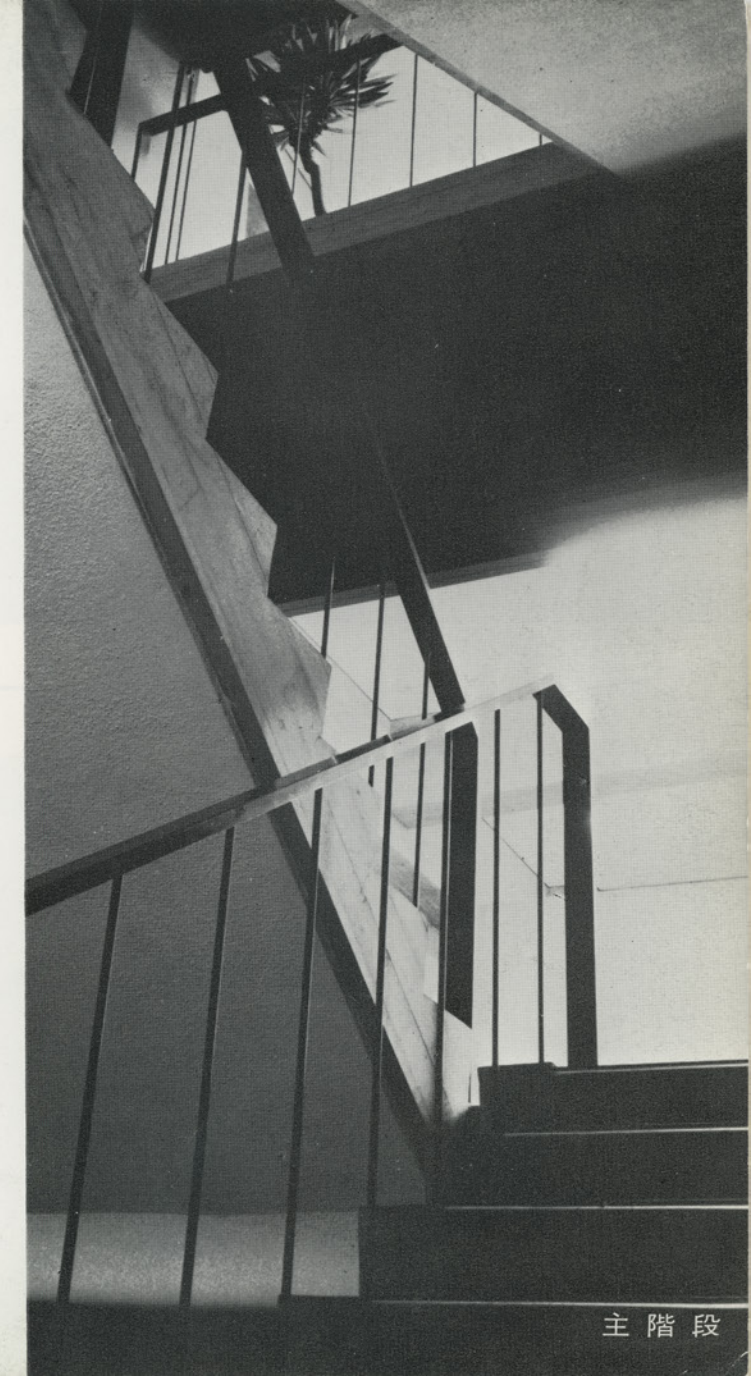
基準階事務室の一部



基準階通路



市金庫



主階段



1階玄関ホール



電話交換室



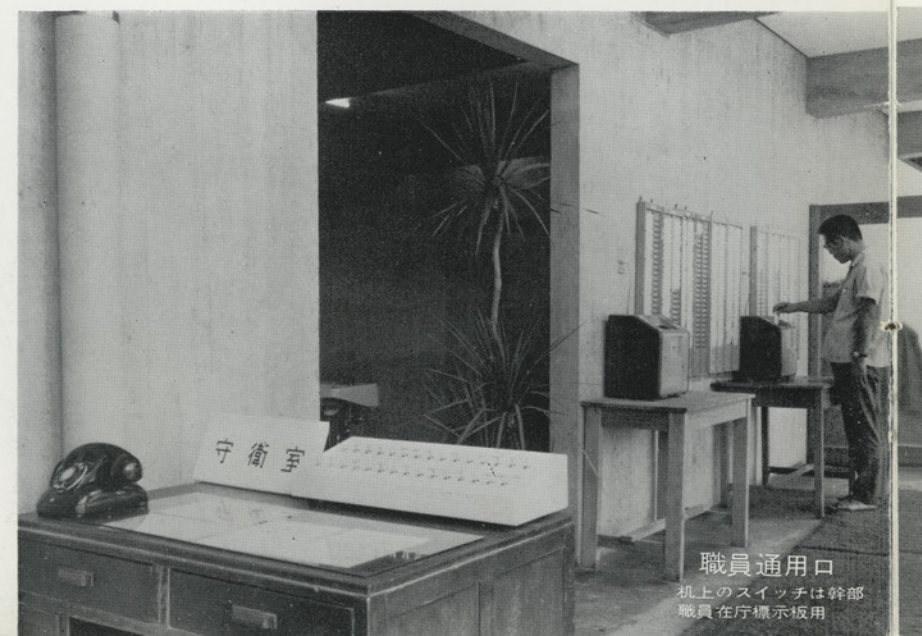
厨房



給湯所



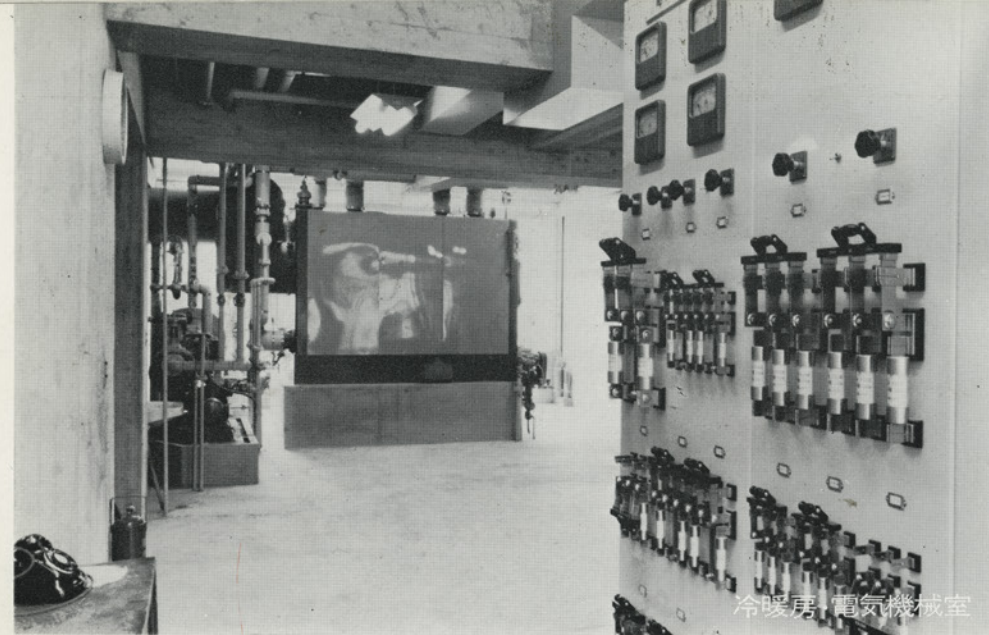
理髪室



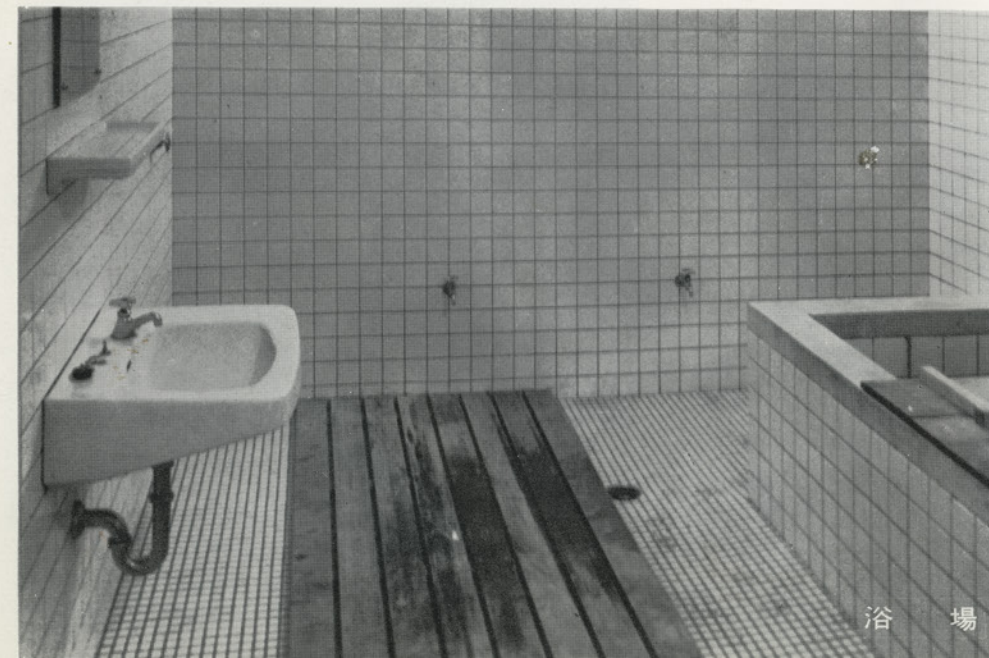
職員通用口
机上のスイッチは幹部
職員在庁標示板用



食堂・売店



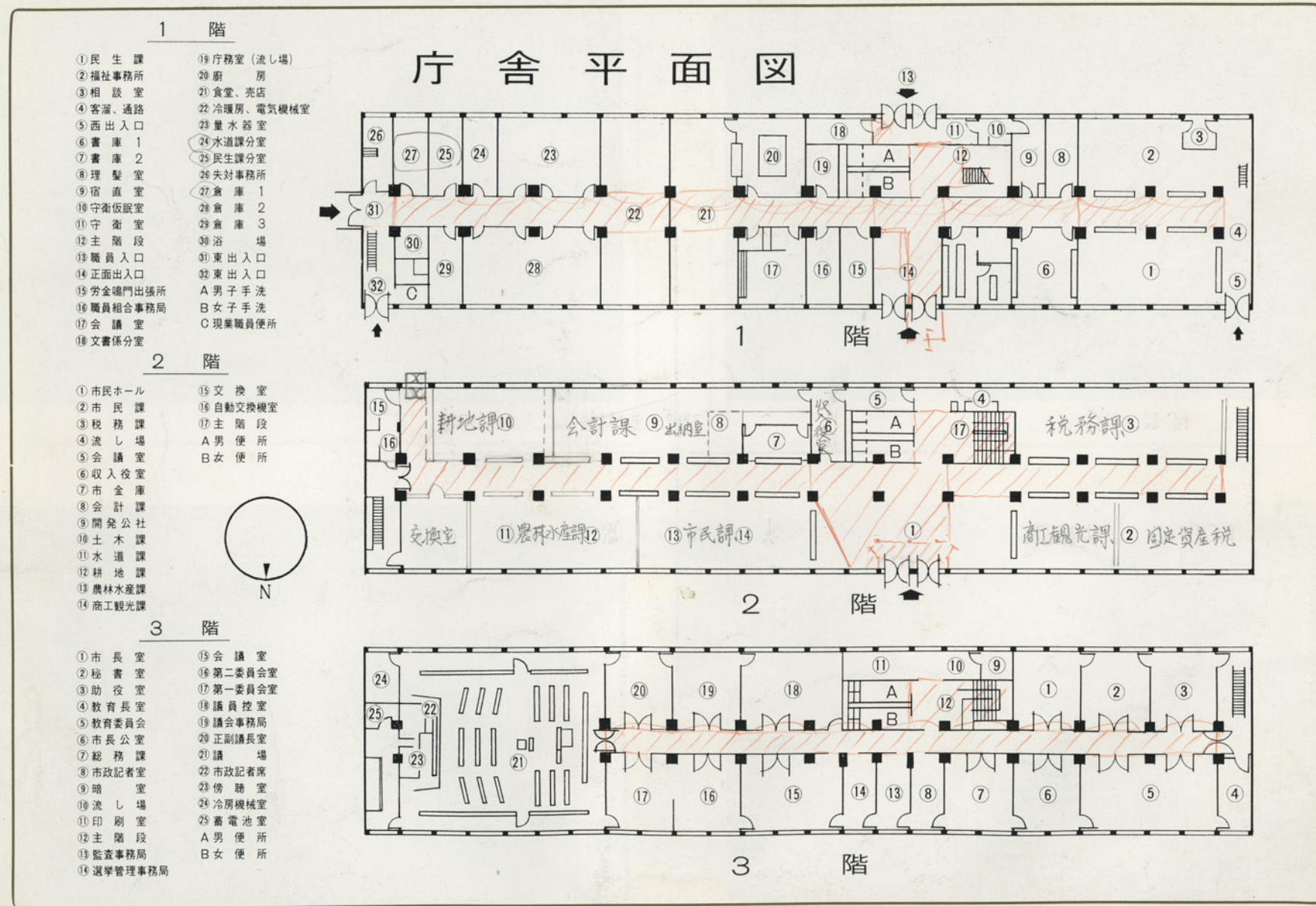
冷暖房、電気機械室



浴場

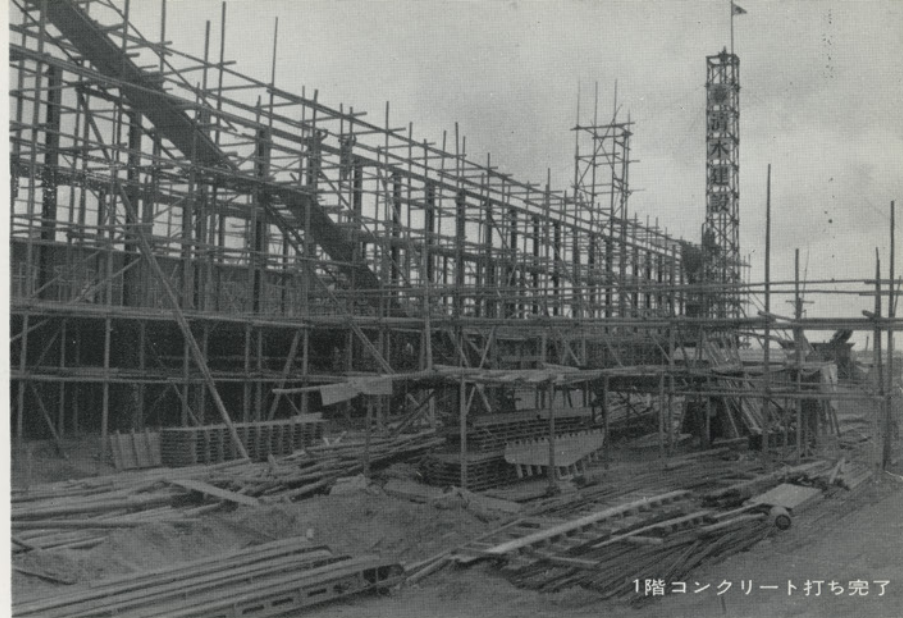


男子便所





基礎杭打ち完了根伐作業



1階コンクリート打ち完了



基礎コンクリート打ち準備



2階内部仕上げ完了

設計者として

京都大学教授 増田 友也

市民会館の建設をも含めての全体計画の当初から一貫して、われわれの意図は、この新しい敷地に市の飛躍を視覚的に意味づけ、象徴化するところの全く新しい景観を展開することにあった。端的には、それは風景の創造にほかならなかった。

6,000 m 及び 3,000 m の方格形による区域全体の構造化と、鉄とガラスによる内外空間の整齊かつ完結の構成とを骨子として、計画は、さまざまな曲折を経ながらも現況を生むに至った。われわれが強く主張し、市民・理事者各位の十分な理解と賛同を得て実現をみたオーバブリッジは、今後の構内整備を待って全体の構造的、有機的な完成の背骨となり、将来にわたって区域全体に生命を与え続けるべき動的な機能を期待される。

建築することは、固定化の行為である。それは建設者の強固な意志の結果でなければならぬ。同時に建築は、あるいは景観は、人間の眼前に生き続けなければならぬ。その可、不可もまた建設者の未来にわたっての確信あるビジョンにかかわる。われわれのこのような意識と主張に、進んで積極的な支持を与えられた各位に対して、尊敬とともに深く感謝したい。

観光都市への魅力

清水建設株式会社 社長 清水 康雄



鳴門市庁舎が鳴門市撫養町南浜字東浜の好適の地に、めでたく完成せられましたことは、施工を担当いたしました当社にとりまして、この上ない喜びでありまして、心からお祝い申し上げます。

この建物は、財団法人建築研究協会（理事長村田治郎氏）のご設計によるものでありまして、鉄筋コンクリート造り、延3,931平方メートルにおよび、当社は昭和37年7月着工以来幾多の困難を克服し、鋭意工事の進捗に努力いたしまして、昭和38年3月無事お引き渡しのできましたことは、ひとえにご関係各位のご鞭撻のたまものでありまして、ここに厚くお礼申し上げます。

豪壮な渦潮をもって観光都市としての魅力を全国にあまねく知れわたる鳴門市の中心、国道11号線に面し、瀟洒にして近代的諸設備を完備せられたこの市庁舎が、鳴門、淡路、明石、阪神と、架け橋の夢を将来にかけて四国の東玄関として、ますます今後ご発展あらんことをお祈りして、お祝いの言葉といたします。

「分不相応」の建物

貴司 山治



鳴門市に新しい庁舎のできたことを、とてもうれしく思います。写真でみると、今の鳴門市にとっては「分不相応」な立派な建物のようです。

それについて昔こういう話があります。昭和のはじめ、東京に日本最初の地下鉄ができる時、それを主唱したTという人(のちの社長)が重役会や株主総会で、地下鉄のプラットフォームを、電車が6輛連結して停車できる長さにして、と提案しました。開業当時は2輛連結がせいぜいなので、それでは4輛分のプラットフォームが遊んでしまう。今使わないものに何億(今なら何百億)もの資本をかけるのは反対だ、とだれも6輛案に賛成しません。

それをT社長が押し切り、無理に借金をして最初から長大なプラットフォームを各駅ごとにつくって「10年先にわしのしたことは実を結ぶ」といいました。そのため地下鉄は、はじめ大変な赤字に苦しみ、その苦勞を続

けてT社長は世を去りました。

それから30何年たった今、東京地下鉄は八方にのび、6輛連結で満員の盛況です。もしT社長が10年さきの理想をもっていなかったら、途中で拡張工事に非常に割り高な金がかかったらと思います。

文化というものも、月日がたつにつれていつのまにか長足の進歩をするものでその点地下鉄のお客様と同様です。現在間にあうだけの設備をつくると、10年さきではもう狭隘を告げてしまいます。いや5年さきでも必ず困ります。

人間には文化意欲というものがある、それは施設があれば、それによって大いに刺激され充足されて、飛躍的に発展します。こんどの庁舎はさきの市民会館とも合わせ、きっと5年、10年さきを予想しながら、いわゆる「分相応」の構想をつくって建てられたものと存じますが、それが、より有力な機能、つまり鳴門市民の生活をよくするために、大巾に役立つことを信じ、喜んでお祝いいたします。

